

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	16
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	4
5．人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1．一人ひとりの把握	2
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1．その人らしい暮らしの支援	13
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>41</b>

訪問調査日	平成 20年8月19日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時40分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 地利目木 ————— (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 山崎 由美
	氏名 星野 久美子
事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 青木 徹
	ヒアリングを行った職員数 ( 3 )人

**項目番号について**  
外部評価は41項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
[取り組みを期待したい項目]  
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
[取り組みを期待したい内容]  
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 調査報告概要表

評価確定日 平成20年10月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1570600724
法人名	社会福祉法人 大形福祉会
事業所名	グループホーム 地利目木
所在地 (電話番号)	新発田市佐々木地利目木2610 (電話) 0254-32-6100
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成20年8月19日

## 【情報提供票より】(20年4月16日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	14.1 人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

## (4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	9 名	要介護2	1 名			
要介護3	6 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	1 名			
年齢	平均	78.1 歳	最低	65 歳	最高	91 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	北越病院、布施医院、新発田市歯科医師会(野田歯科医院)
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に開所し、訪問・通所・居宅介護支援等介護保険関連事業から保育園事業まで福祉を手掛ける法人である。新発田市佐々木駅より徒歩10分、住宅街から離れた閑静な環境である。2ユニットのホームはテラスを挟み2棟あり行き来することができる。また、同敷地内にショートステイと小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、看護師、栄養士といつでも相談したり、緊急時の協力体制もできている。職員は明るく元気で、利用者・家族とともに「毎日楽しく暮らしたい」という理念の実践に向け、一丸となり取り組んでいる。今回町内会に加入したことで地域の一員としての役割を果たす取り組みを始め、今後が楽しみな事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	先回の評価結果を受け、全体会議にて話し合い具体的な改善に取り組んでいる。運営推進会議に家族参加の実現、排泄チェック表の取り扱いの工夫、急変・事故発生時に備えた定期的訓練の実施等、評価の意義を理解し、改善に繋げる全体の流れが定着している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、一人ひとり自己評価したものを全職員で話し合い取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、利用者・家族・自治会長等計7名で開催しており、ホームの状況報告・情報交換を行っている。地域・家族参加のピアホールの行事、災害時の地域の連携体制等、意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口を明示し説明している。先回の評価結果より運営推進会議に家族が参加し意見を表出する機会を設けている。「活動的・刺激のある生活を配慮してほしい」と、意見があり運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入したことにより、地域の方と協働することが増え避難訓練の協力を消防団の方に働きかけを行ったり、広報誌の回覧や職場体験の受け入れ等、地域と連携している。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の思い「毎日楽しく暮らしたい」を基に「利用者が安心できる生活」「地域に根ざした暮らし」を実践できるよう、職員で事業者独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の全体会議やユニット会議時に理念に対する思いや方針を話し合い、職員が意識して理念の共有・実践できるよう取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌の配布や運営推進会議等で理念や認知症について話しをしており、家族や地域に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入したことにより地域の一員として密接な関係が築かれ、ホームの行事に参加してもらったり、保育園に出かけたり、中学生の職場体験の受け入れ等、積極的に交流に努めている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議にて評価の意義を説明し、全職員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。評価の意義を理解し、改善に繋げる全体の流れが定着してきている。今回の自己評価も全職員で話し合い取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者・家族を含めたメンバーで開催している。地域の方・家族参加のピアホールの行事、災害時の地域との連携体制等、意見をもらい話し合う貴重な機会となっており、サービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しているが、会議の内容をその都度、市の担当職員に報告している。また市との連携で緊急性の高い方の入居の受け入れを検討している。地域の認知症ケアの拠点となる取り組みはまだない。		市の担当職員を中心に、市内のグループホームとのネットワークづくりを行い、介護教室や相談を受ける等、地域の高齢者や認知症の拠点となる取り組みを期待したい。
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法や虐待の定義・対応方法について研修を行い、全職員で学ぶ機会を設けている。また、マニュアルの読み合わせや会議でも話し合い防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月一回現況報告と預かり金出納帳の写しを送付している。面会時や必要時電話連絡を行い、暮らしぶりの報告をしている。職員異動については広報誌に職員紹介として掲載しているが、浸透が不十分であり不安を訴える家族もいる。		家族の安心を確保するためには積極的な報告が不可欠である。家族が知りたい点を考慮し、一層ホームとの信頼や協力関係を築くために、職員異動の報告も丁寧に行うことが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明示し説明している。先回の評価結果より、運営推進会議に家族も参加し、意見を表出する機会を設けている。「活動的・刺激のある生活を配慮してほしい」との意見があり、運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含め、職員間で何でも言い合える良い関係が出来ている。会議・親睦会等にて職員の意見やアイデア・提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員に「多くの異なった職場での経験を重ね、スキルアップやサービス向上に繋げてほしい」と、あえて異動を促している。職員もその経験を大切に日々の取り組みを行っている。代わる場合は勤務時間を合わせて引き継ぎをしっかりと行い、利用者への挨拶やその後も訪問する等、ダメージを防ぐ配慮を徹底している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルが整備しており、職員と会議等で読み合わせし周知している。日頃より、問題提起し適宜見直しを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、新人・中堅・管理者といった段階別の研修計画を立て、参加を促している。また資格取得を含め、法人外研修への参加を支援している。ホームでは年間研修計画を作成し、毎月テーマを決めて会議時に研修・勉強会を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内同業者との交流の機会が多いが、法人外同業者との交流は少なく、運営者・職員ともに必要性を感じている。今後職員の希望を取り、法人外ホームの見学を計画している。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員は休憩室があるため、1時間の休憩を順番にとっている。運営者は定期的に事業所を訪ね話を聞き、管理者とは言い合える良い関係ができています。管理者はシフトに入れず、緊急対応が可能であり、ゆとりある職員配置に努めている。定期的に懇談会や交流の機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境が変わることはショック・混乱を招くことと理解し、事前に本人・家族に来訪してもらい、意向を聞き、短時間の利用や見学、お試し入所等、安心して入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	多くの経験と職員より長く過ごされたことを念頭に、敬う気持ちを持って接している。一緒に過ごす中で、料理の仕方を教えてもらったり、畑仕事等学び、支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在があってこそ、ホームにおいても穏やかに暮らしていくことができると感じており、一緒に本人を支えていく大切さを伝え関係を築いている。事あるごとに相談し、関係の継続に配慮しながら支援している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制により一人ひとりと密接に関わり、「どう暮らしたいか」本人・家族より聞き取り、思いや希望・意向を本人本位に検討している。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式により、本人・家族と積極的に話をする機会が増えた。一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握と情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスへの参加を促し、本人・家族の意見やアイデアが反映された計画作成を行っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の経過記録に評価を記入したり、課題の把握や変化に気づきやすいように工夫し、現状に即した新たな計画を作成している。3ヶ月に1回計画作成担当者が評価を行い、半年に1回位をめやすに見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物・自宅への外出やかかりつけ医の通院支援等、本人や家族の要望に応じて柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により今までのかかりつけ医に受診している。職員が付き添い、利用者の状態を医師へ情報提供し適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内で重度化や終末期に向けた指針を作成し、契約時に本人・家族に説明している。協力医との連携体制が今後の課題である。		法人の指針に沿って、チームで方針の共有や支援に繋げるには、緊急時に対応できる医療との連携が不可欠である。予定されている併設施設協力医との連携を、法人とともに明確化し体制づくりを確保することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけないようさりげない言葉かけや対応に努めている。個人情報についてはマニュアルに沿って対応し、なれ合いにならないよう会議で話し合ったり、研修で学ぶ機会を設けプライバシーを確保している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩に出かけたり、一人ひとりのペースや希望を大切に、メリハリを持って日々を送れるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・片付け等、一人ひとりの有する力を活かし食事づくりを行っている。畑で収穫した野菜を調理したり、職員と同じテーブルで会話をしながらの食事は楽しみとなっている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表により排泄パターンを把握している。オムツ・パッドの交換は目に触れないよう準備し、羞恥心・プライバシーに配慮した気持ちよい排泄を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、入浴できるよう支援している。利用者と1対1で交流できる大切な機会と捉え、じっくり話をしたり、時には利用者同士で入ることもあり、入浴を楽しんでいる。困難時は時間の変更や同性が誘ったり、清拭を行う等工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や掃除・畑仕事・猫の世話等、本人の生活歴や得意な分野を活かした役割があり、能力に合わせて自立支援をしている。外出支援は個々の役割を活かし、楽しみ・気晴らしになるよう、目標や内容をプログラム化し実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材・日用品の買い物、散歩等、希望に沿って日常的に外出を支援している。利用者・家族の希望にて個別の外出にも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で学んだり、マニュアルを利用して、全職員が正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	会議にて全職員が弊害を理解し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。地域の協力もあり、見守りを徹底している。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を記録し、予防策を検討している。1ヵ月後に対応策の評価を行い、一人ひとりに応じた事故防止の共有・徹底に努めている。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	先回の評価結果を受け、マニュアルを活用した勉強会や訓練を定期的に行い、急変時・事故発生時に備えている。年に1～2回、応急手当の訓練を行い事故防止に取り組んでいる。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網や役割分担等体制づくりを行っている。昼のみの訓練しか行っていないが秋には夜間の訓練も予定している。備蓄・防災セットの準備もしている。今後、地域の消防団との連携も予定されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士に献立を確認してもらい、栄養バランスを考えた食事を提供している。毎食後、食事量・水分量のチェックをし、調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンユニット中央部に配し、吹く抜けの木のぬくもりと開放感が感じられる。壁には絵手紙等利用者の作品や生け花が飾られ、季節感を取り入れている。畳・応接スペースでくつろいだり、猫やインコとおしゃべりしたり、思い思いに共用空間で居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室には箆笥・ベッドが設置され、家族の写真・テレビ等、馴染みのものを自由に持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。		